

生誕一三〇年 「ノエル・ヌエット」展

会期:2015年 4月 4日(土)~ 6月28日(日)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、ギャラリー第74回企画展として、2015年 4月 4日(土)から6月 28日(日)までの期間、「生誕一三〇年『ノエル・ヌエット』」展を開催します。

1885年(明治18)3月30日、フランスのブルターニュに生まれたノエル・ヌエット氏は、20代の頃よりパリで詩人として活躍する傍ら、留学中の日本人たちと交流し、日本への思いをふくらませました。

1926年(大正15)に初めて来日し、フランス語の教鞭をとるかたわら、戦前戦後の東京の街を歩いて多くの詩やスケッチを残しました。スケッチは絵葉書や版画として人々の目を楽しませ、詩にうたわれた風景は、描かれたスケッチとともに書籍にまとめられました。

1962年(昭和37)にフランスへ帰国するまでの30年以上日本に滞在し、フランス留学により知り合った人たちとの交流は、その間の日本での生活に大きな影響を与えました。

今回は、本年が生誕130年に当たるノエル・ヌエット氏の、スケッチを元に制作された版画を中心に、滞日中に手掛けた画集や詩、書籍などにより、一外国人が捉えた東京の姿を紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊

〈ノエル・ヌエット氏 略歴〉

1885年(明治18) 3月30日

フランス北西部ブルターニュ地方のモルビアン県ヴァンヌ市北方に位置するロクミネで、医者である父アンジュと母マリの長男として生まれる。

1910年(明治43) 25歳

処女詩集「葉がくれの星」を出版。詩人としての活動の傍ら、滞仏中の日本人との交流を持つ。

1926年(大正15) 41歳

旧制静岡高等学校講師として来日。

1929年(昭和4) 44歳

一旦帰国するも、翌年に再び来日して東京外国語学校講師に就任。

その後東大、早大、アテネ・フランセなどで教鞭をとる傍ら、滞日中に東京各所をまわり、その風景をスケッチや詩にうたい、詩や随筆、画集を著す。

1962年(昭和37) 77歳

帰国してパリに居住。

1965年(昭和40) 80歳

東京都名誉市民となる。

1969年(昭和44) 9月30日

パリで死去。享年84歳

1) 東京風景 目録

ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)

【版画「東京風景」刊行経緯】

ヌエット氏は、旧制静岡高等学校時代の教え子の実家である、土井版画商より木版木の刊行を打診され、よろこんで承諾しました。

ペン画を木版画で表現するためには、板上にすべての線を写し取る必要があり、何週間も費やして彫り師を悩ませました。

まずは作品「桔梗門」と「増上寺」を一色で刷り上げました。その後、版元は作品に色を加えることを決め、二十二点の作品を制作し、合計二十四点の木版画に仕上げました。

価格は一枚三円で、1936年(昭和11) 3月より毎月二枚ずつ一年をかけて発行されました。

展示では、版画作品と共に、同じ場所を描いた、氏のペン画スケッチを紹介します。

2) 東京風景 桔梗門

ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

3) 東京風景 増上寺

ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

4) 東京風景 日比谷

ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)



「版画」



「スケッチ」

5) 東京風景 弁慶堀

ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

6) 東京風景 赤坂見附
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

7) 東京風景 浅草寺
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

子供の頃に母親が知人から譲り受けた、広重の「江戸百景」を眺めていたヌエット氏ですが、自身が広重が描いた地を訪れ、さらに自身の絵が版画として出版されるとは思いもよらないことでした。

広重が描いた雷門から眺めた仁王門の姿は、江戸の終わりに雷門が焼失してしまったことにより、氏はみることは出来ませんでした。一方氏が描いた仁王門の姿は戦災で焼けてしまったため、現在ではもはや見ることはできません。

8) 東京風景 亀戸
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

9) 東京風景 両国橋
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

10) 東京風景 不忍池
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)



「版画」



「スケッチ」

11) 東京風景 歌舞伎座
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

12) 東京風景 靖国神社
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

作品は靖国神社神門が描かれています。建築家伊東忠太による設計で、1934年(昭和9)に竣工しました。神社はこの門の開閉により、一日の始まりと終わりを迎えます。

第二次大戦中も日本に留まっていたヌエット氏ですが、1945年(昭和20)3月9日の空襲で麹町区富士見町(現在の千代田区九段付近)にあった家は焼け、靖国神社に逃げたと回想で語っています。

13) 東京風景 上野公園
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

14) 東京風景 馬場先門
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

15) 東京風景 御茶の水
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

16) 東京風景 隅田川
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

17) 東京風景 明治神宮
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)

18) 東京風景 井之頭公園
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)

ヌエット氏は在日中、何度も井の頭池を訪れていました。

杉の大樹に囲まれた池の小島には弁財天が祀られ、散策の場になっており、日曜などは人出が多すぎると語っています。

氏は校合(きょうごう)刷りの展示作品のように、戦後手がけた版画の画題にも、井の頭池の弁天堂を取り上げています。

19) 東京風景 芝古川
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)

20) 東京風景 紀尾井町
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)



「版画」



「スケッチ」

21) 東京風景 池上本門寺
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)

22) 東京 神田明神
ノエル・ヌエット 1950年(昭和25)

23) 東京 井之頭(校合摺)
ノエル・ヌエット 1950年(昭和25)

24) 東京風景 桜田門(校合摺)
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

25) 東京風景 桜田門
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

26) 東京風景 黒門(校合摺)
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

27) 東京風景 黒門
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)



「版画」



「スケッチ」

- 28) 東京風景 日本橋(校合摺)
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 29) 東京風景 日本橋
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 30) 東京風景 神楽坂(校合摺)
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)
- 31) 東京風景 神楽坂
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)



「版画」



「スケッチ」

- 32) 詩集 無限を渴望する心
ノエル・ヌエット 1911年(明治44)

【詩人ノエル・ヌエット】
ヌエット氏は12歳の頃より詩人になることを夢見、学生時代は文芸雑誌を購読して、詩作を試みていました。高校卒業後にパリへ行き、芸術家たちの住まうモンマルトルに居住し、文芸書を刊行している出版社に勤めながら詩作に励みました。文芸誌「レルミターージュ」に詩が掲載されるときに、初めて「ノエル・ヌエット」というペンネームを使いました。



詩集

「無限を渴望する心」

音の響きがよいという理由で選んだペンネームで、1910年(明治43)に処女詩集「葉がくれの星」を自費出版しました。

翌年には第二詩集「無限を渴望する心」を、1913年(大正2)には第三詩集「荒野の鐘」を出版し、後年、アンリ・クルアールの「フランス文学史」1947年刊のなかで、ヌエット氏を紹介する項では、「無限を渴望する心をして語らせる詩人」と著されています。

文学活動にいそしんでいた氏ですが、1914年(大正3)にはじまった第一次大戦では召集されて筆を止めることとなり、再び活動を再開したのは1919年(大正8)のことでした。

- 33) 画集 東京 一外国人の見た印象 一集
ノエル・ヌエット 1934年(昭和9)

【ペン画スケッチ】

これから三十年以上もの東京滞在のはじまりとなる、シベリヤ鉄道経由の二度目の来日の旅路に夫人は同行しなかったため、ヌエット氏は自由な時間を、東京

の姿を描くことに費やそうと考えました。街の風景や、時には人物を万年筆で描き、この趣味を知人で画家でもある石井柏亭氏は後押ししました。ペン画による東京のスケッチは、最初、白水社の雑誌「ふらんす」に発表し、その後絵葉書として売り出されました。氏は殆ど無報酬でしたが、自身の作品が絵葉書となり、友人に贈ることができるので満足していました。

また、「ジャパン・タイムズ」に週一回、1931年(昭和6)から三年間に渡り掲載され、掲載後五十枚の作品が画集としてまとめられ刊行されました。

- 34) 画集 東京 一外国人の見た印象 二集
ノエル・ヌエット 1935年(昭和10)

- 35) 画集 東京 古い都・現代都市
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)



画集

「東京 古い都・現代都市」

- 36) 画集 東京
ノエル・ヌエット 1946年(昭和21)

- 37) 画集 東京
ノエル・ヌエット 1948年(昭和23)

- 38) 画集 宮城環景
ノエル・ヌエット 1947年(昭和22)

ヌエット氏が愛し、これまでも何度もスケッチをしてきた、皇居のお濠を描きまとめた二十八景の画集になります。英語・仏語・日本語のコメントがつき、氏による宮城の説明、濠について詠んだ詩が掲載されています。

すべての日本語訳は山内義雄氏によるもので、氏との交流は長く続き、1962年(昭和37)の離日の際に詠んだ詩の訳も手がけています。

またこの画集は山内氏から永井荷風氏に渡し、氏は好意的な文章を残しており、ヌエット氏が1950年(昭和25)に素描画展を開催したときは、推薦文を寄せています。

- 39) 書籍 日本風物誌
ノエル・ヌエット 1942年(昭和17)

- 40) 書籍 東京のシルエット
ノエル・ヌエット 1954年(昭和29)

- 41) 書籍 東京誕生記
ノエル・ヌエット 1955年(昭和30)



画集「宮城環景」

42) 書籍 愛は神ならず

ノエル・ヌエット 1952年(昭和27)

43) 書籍 エドモン・ド・ゴンクールと日本美術

ノエル・ヌエット 1959年(昭和34)

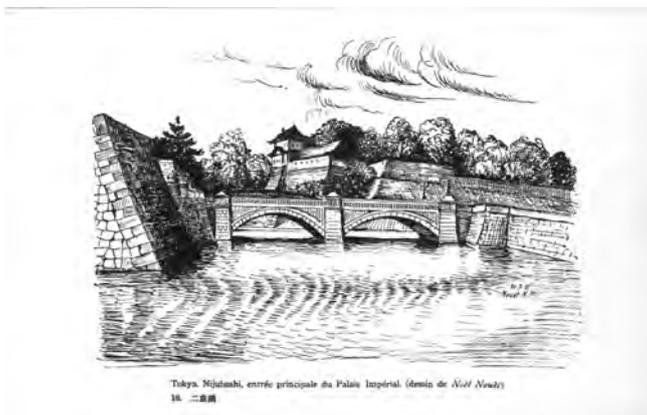
44) カード

ノエル・ヌエット 戦後



45) 絵はがき

ノエル・ヌエット 昭和初期



46) 新聞 「フランス美術展」によせて

ノエル・ヌエット 1962年(昭和37)

『離日に際して詠んだ詩』

ノエル・ヌエット

わが心は、喜びと悲しみに満つ。
目にみるものはすべてたのしいけれど、
「帰り来よ」といざないやまぬ声にむかいて、
われはいま、
「いまのわが身には敗残悲哀のかげのみふかくして」
と答うるほかにすべなきことぞうらみなれ。

(山内義雄・訳)
(一九六二年)

【帰国】

1956年(昭和31)に友人知人や教え子たちから、滞在三十年を記念した御祝いを開いてもらったヌエット氏は、次第に滞日時間を意識するようになり、1961年(昭和36)夏に祖国フランスへの帰国を決めました。翌年の春に氏は、京都で開催中の「フランス美術展」を見学し、新聞へ三十六年の滞日を振り返り、詩をエッセイとともに寄稿しました。

1962年(昭和37) 5月12日横浜発の客船に乗り、日本を後にするヌエット氏は、見送りに来てくれた人たちを前にすると胸が一杯になり、船が動き出すと、離日の選択をした自身との葛藤のため涙が抑えられませんでした。

氏のフランスへの最大の土産は、日本人の友情でした。

参考

ノエル・ヌエット 近影
「日本風物誌」より
1942年(昭和17)

参考

自画像
「東京のシルエット」より
1954年(昭和29)



おもな参考文献

- 筆と刀 クリスチャン・ポラック
- 在日フランス商工会議所 2005年
- 特別展図録「版画にみる東京の風景」
- 大田区立郷土博物館 2002年
- 荷風全集 第20巻 永井壯吉 (株)岩波書店 1994年
- 荷風と市川 秋山征夫 慶應義塾大学出版会 2012年
- 父・西條八十の横顔 西條八束 風媒社 2011年
- 富士ばら 旧制高等学校物語 (静高編)
- (株)財界評論社 1965年
- その他ヌエット氏著作物

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。
次回より約 1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町 4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《 当館のお客様情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》